

雪のいと高う降りたるを 枕草子

が

とても

深く

降つ

た

のに

いつもと

違つて

を

①雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子参りて、

おしゃべり

女房たちが御前に控えていた時

炭櫃に火おこして、物語などして、集まり候ふ

に、

をお

下ろし申し

御格子参りて、

を

②「少納言よ、香炉峰の雪、いかなら

む

。」と仰せらるれば、

のば

おつしやる

ので

巻き

た

ところ

お

笑い

になつた

③御格子上げさせて、御簾を高く上げたれば、

笑はせ給ふ。

ば

、

そのような詩句

④人々も、「さることは知り、歌などにさへ歌へど、

まで

歌う

けれど

思ひこそ寄らざりつれ。

思ひ

よら

なかつ

た

やはり宮にお仕えするとしてふさわしいであるようだ。言つた

⑤なほこの宮の

には、さべきなめり。と言ふ。

として

ふさわしい

である

ようだ

。

撥音便

撥音便